

## まちづくりや環境整備における 多様な主体と地域の連携構造に関する研究

○脇谷 翔太郎（東京農業大学農学研究科造園学専攻）

○麻生 恵（東京農業大学地域環境科学部）

キーワード：地域連携，まちづくり，環境保全，地域活性化

### 1. 研究の背景と目的

持続可能な社会形成へ向けて、地域の持続性確保が困難な地域課題に対して、従前の従属関係や地縁関係といった境界を跨いだ地域連携なしに、地域に依存する多様な利害関係者（ステークホルダー）の要求に緻密に対応し得ない状況が認識されている。

こと計画分野においては、各参画主体の意向、要求を的確に把握しておくことは、計画目標を設定するプロセス上重要な作業であるが、その要求は流動的、目先の、短期的である場合が多い。また、全体としてみれば体系的でなかったり、各参画主体相互に相反するような要求が存在することも少なくない。このことから、各参画主体が相互に共通理解を持った上で、意思決定が行われるのであれば、それは望ましい地域連携のかたちであると考えられる。

しかしながら、地域課題が漠然としているなかで、各参画主体の要求が曖昧であったり、お互いに矛盾する要因を含むような場合が多く、各主体が参画したくなるような動機も考えなければならない場合もあるだろう<sup>1)</sup>。加えて、自立した地域社会を形成するために、地域に依拠する各参画主体の協働を推進することや、また、ワークショップ<sup>2)</sup>など地域連携や組織化を支援する手法の構築も望まれる。

こういった背景を受けて、本研究で

は、地域連携を「特定の地域において、各参画主体が既存の従属意識や利害関係を超えるなど、多様な相互依存関係を築いた上で、相互意思決定のもと、目的的要求に従い行為を展開するもの」と定義し、地域連携の実態調査をもとに、その関係性の構造化を試み、今後の地域連携形成へ向けてその主題を明らかにする。

また、本研究の目的としては、①地域連携に係る各参画主体の関係性を構造化することで、柔軟な地域連携形成へ向けてその望ましい構図を明らかにし、②地域連携形成時の要求や評価、参入障壁といった課題を整理することとする。

### 2. 研究の方法

#### 2-1. 調査要因

本研究では、筆者が関わっている地域連携の事例を中心に実態調査を行う。本調査の主眼は、地域連携に参画する各主体から、複数の要求を可及的に抽出した上で、次のような課題を整理して、地域連携の形成上の課題を発見確認し、その問題構造を把握することである。

- ①各参画主体の目的的な要求と制約的な要求の性質と度合いの把握
- ②各参画主体同士の関係（補完関係、競合関係、上位・下位など）
- ③地域連携の構図としての評価

## 2-2. 調査方法

調査方法としては、個別面接調査法によるインタビューを予備調査として、本調査表を作成する。そして、各参画主体の有意選択法によるサンプル調査によって各参画主体の状態、意識、行動間の関連を、正と負とそれぞれの強弱のリンクによるネットワーク構造化を行う。

インタビュー、サンプル調査における調査指標は表-1の通りである。

表-1 調査指標

個体属性 (全6項目)	単位、経緯、活動内容、活動空間、資源性、市場性
要因 (全7項目)	相互関係性機能、主観的規範、義務感、価値観の共通項、覚悟感、リスク認知、コスト評価
連携形成行動 (全3項目)	目的的要求、制約的要求、組織内役割

また、以下の指標に基づいて調査結果に対しての評価を行い、地域連携を形成する際の課題を明らかにする。

- ① 地域連携を行う際に、目的が明確であるか
- ② 目的に対して、適正に達成されたか、また見込みがあるか
- ③ 各主体にどのような利点、欠点が見受けられるか
- ④ 連携構造にはどのような特性、課題が見受けられるか

## 2-3. 調査対象

調査対象活動として、東京農業大学が関係する事業のなかで、筆者が参加したものを中心に行う。事例分析対象とするのは以下の通りである。

- ① 東京農業大学が関わる事業：阿蘇野焼きボランティア事業、鮫川村里山保全活動、自然環境保全学研究室の石川県輪島市三井町での取組み、湘南ひらつか・ゆるぎ地区活性化に向けたプロジェクト、CASE1 クッチャロ湖学生環

境サミットなど

また、参考事例として、以下の通り文部科学省の推進事業事業も取り扱う。

- ① 大学教育・学生支援推進事業【テーマ A】大学教育推進プログラム（2009年事業開始）のなかから選定
- ② 特色ある大学教育支援プログラム（通称：特色 GP、2003年事業開始）のなかから選定
- ③ 現代的教育ニーズ取組支援プログラム（通称：現代 GP、2004年事業開始）のなかから選定
- ④ 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（通称：学生支援 GP、2007年事業開始）のなかから選定

## 参考文献

- 1) 原昭夫、参加型社会づくりと風景デザイン（進士五十八ほか「風景デザイン」、学芸出版社、東京）、133-174、1999
- 2) 中野民夫、ワークショップ - 新しい学びと創造の場、岩波書店：2001
- 3) ラック計画研究所、観光・レクリエーション計画論、憐枝報堂：52、1975
- 4) 日本レクリエーション学会、レクリエーション学の方法、憐ぎようせい：136-189、1987
- 5) 平田太良ほか、鮫川村の館山公園における参加協働型の公園再生計画および整備プロセス、平成20年度日本造園学会関東支部大会事例・研究報告集、(社)日本造園学会、26号：2008
- 6) 新・湘南ひらつかモデル勉強会、「新・湘南ひらつかモデル」勉強会[報告書]：2008